



図説 基礎からわかる 被曝医療ガイド

箱崎幸也, 作田英成, 田村泰治 著
鈴木 元 監修



本書は、今まで一般の医療関係者においても馴染みの薄かった被曝医療についての基礎ガイドであり、ひろく医療関係者に知っておいていただきたい内容を含んでいる。タイトルに「図説」とあるように、著者らが日頃から色々な場面で使用し

てこられたプレゼンテーション資料を基にした図表に対して簡潔な言葉で説明がなされている。

第一章は「被曝医療の基礎知識」と題して自然界から受ける放射線にはじまり放射能と放射線、放射線の単位に関する基礎知識、放射線被曝の様式、被曝の人体への影響について取り上げている。

第二章は「放射線事故患者への対処」と題して初期被曝医療の概要にはじまり、一般病院外来での被曝医療の在り方について紹介されている。

第三章は「過去の放射線事故の特性（対応と問題点）」と題して過去に発生した重篤な事故についての概要、被害状況に関して簡潔に事故ごとに取りまとめられている。

第四章は「福島原発事故の概要と健康被害」と題して福島第一原子力発電所事故について執筆時期に判明していること、概要、食品・環境での規制について説明されている。

第五章は「放射線の中・長期的な影響」と題して

広島・長崎における原爆被曝後の影響、チェルノブイリ原発事故と発がんリスクについて取り上げ、最後に低線量被曝と発がんとの関連について述べられている。

高線量被曝に対する被曝医療については、プロトコルも充実している印象を持ったが、低線量放射線被曝による人体への影響については、いまだ科学的に解明されていないことが多々存在しているため、低線量被曝の中・長期被曝に対する人体への影響に関して今後数十年にわたって注意深く被曝医療対策が施される必要があることが本書からも読み取れる。

全体を通じてほぼページごとにテーマが完結しており、ガイドとして要領よくまとめられている。筆者の希望としては「放射線事故患者への対処」において、まず医療関係者が被曝事故に遭遇したときの心得から説明をしていただけたら、被曝医療の初心者にとってどのように向き合えば良いかを感じとれたと思われる。また、国の二次、三次被曝医療機関について役割、所在地、連絡先等の情報についても Appendix に加えておけば、よりガイドとして充実したものになったのではないと思う。更に付け加えれば、一般の人に馴染みが薄い専門用語が多々見受けられるので、用語解説を付けておいて欲しかった。出版後に明らかになってきたこと、規制値など対応の変化もあるため変更を行っていただけたらと思う。

どんなに確率が低くとも日本のどこかの原子力発電所で発生する可能性が否定できない状況において、伝染病対策と同様に日本の医療関係者は、被曝医療についても基本的知識を備えておく必要があると思う。そのためにも、更なる事故によって被曝が起こらないことを願いつつ、被曝医療、放射線防護の基本知識習得のために医療関係者の方々に一読していただければと思う。

(森 雅彦 (独)放射線医学総合研究所 主任研究員)

(ISBN978-4-931400-65-8, B 5 判 92 頁, 定価本体 1,800 円, 日経メディカル開発, ☎03-6811-8780, 2011 年)